



島はぼくらと

辻村深月／著 講談社

『島はぼくらと』を書き終えた時に、まず頭の中にあったのは、安堵感や達成感よりも、「これで冴島とお別れしなければならぬんだ」という圧倒的な寂しさでした。このたび皆様に選んでいただけたおかげで、再び冴島に戻って来られたような幸福を感じています。あの島で過ごす高校生四人とともに、心より、ありがとうございます、とお伝えしたいです。

(辻村深月さんご本人からのコメント)

不緒の鳥 十二国記

小野不由美／著 新潮社

本作は人気シリーズ「十二国記」の12年ぶりとなるオリジナル短編集です。己の担う役割を懸命に全うしようとする男たちの清廉なる生き様を描く全4話。

「十二国記」は異世界を舞台にしながらも、我々が体験する葛藤が重なります。苦難を乗り越える姿は、読者にとって勇気となるはずです。

(担当編集者さんからのコメント)

人生はニャンとかなる！

明日に幸福をまねく68の方法

水野敬也・長沼直樹／著 文響社

この本は、「大切な言葉をいつも手元に置いておけるように」という思いでつくりました。猫の写真と一緒に紹介されている言葉は、すべて古今東西の偉人たちが実際に行ってきた習慣が元になっています。何かで悩んだとき、ふとこの本を開いてもらえたら、最高に嬉しいです。

(水野敬也さん、文響社スタッフの皆さんからのコメント)

目でみることば

おかべたかし・山出高士／著 東京書籍

この本は「借りた写真を使わない」というルールで作りました。それゆえ時間も労力もかかりましたが、だからこそ伝わる面白さがあると思っています。ネットでなんでも「わかる」時代ですが、敢えてやってみることで生まれる驚きや笑いがあることを感じてもらえたら嬉しいです。

(おかべたかしさんご本人からのコメント)



駅物語

朱野帰子／著 講談社

皆さんには夢がありますか。夢がかなったとしてその先にどんな現実が待ち受けているか知っていますか。その現実と逃げずに戦っている大人たちの物語を書きました。読み終わった後、駅を行き交う大人たちが前よりもきらきらして見えた…そんな風に思ってくれたらとても嬉しいです。

(朱野帰子さんご本人からのコメント)

昨夜のカレー、明日のパン

木皿泉／著

河出書房新社

私たちの書くものは、ちょっと不親切です。人によっては、もっと説明の描写を入れて欲しいと思うかもしれませんが、でも、それこそが読書の楽しさではないかと思えます。かつて、学校の図書室でそのことを教えてもらいました。読みかけの本から目をはなし、窓の外を見ながらぼんやり考える。もう戻れない、今でも大切に思う場所です。そんなところから私たちの本を選んでいただいた、というのがとても嬉しく光栄です。

(木皿泉さんご本人からのコメント)